

今日のトピック 日銀の金融政策（2016年9月） 「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」を導入

ポイント1 新たな金融緩和の枠組み 物価安定の目標の早期実現のため

- 日銀は、9月21日の金融政策決定会合で、2%の「物価安定の目標」をできるだけ早期に実現するため、「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」を導入することを決定しました。これは①長短金利の操作を行う「イールドカーブ・コントロール」、②インフレが2%を安定的に超えるまで、マネタリーベースの拡大方針を継続する「オーバーシュート型コミットメント」を2大柱としています。

【日銀の新たな金融政策の枠組み】

2大柱
①「イールドカーブ・コントロール」
②「オーバーシュート型コミットメント」

「金利」
短期金利
日銀当座預金のうち政策金利残高への適用金利：▲0.1%
長期金利
10年国債金利：概ねゼロ%程度
「量」
マネタリーベース
2%の「物価安定の目標」の実現を目指し拡大方針を継続
「質」
長期国債
年間80兆円相当の保有残高増を目標として買入れ
ETF
年間6兆円相当で保有残高増となるよう買入れ
J-REIT
年間約900億円相当で保有残高増となるよう買入れ
CP等、社債等
それぞれ約2.2兆円、約3.2兆円の残高を維持

(出所) 日本銀行の発表を基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 総括的検証で背景説明 予想物価上昇率を強力に高める

- 今回日銀が発表した「総括的検証」では、これまでの「量的・質的金融緩和」は実質金利低下の効果により経済・物価の好転をもたらした、としました。そして今回導入の「イールドカーブ・コントロール」により、この実質金利低下の効果を追求するとしています。
- 一方、「量的・質的金融緩和」により、物価の持続的な下落は解消されたものの、原油価格の下落などの外的要因によって、2%の「物価安定の目標」は実現できていないとしました。これに対し、「物価安定の目標」の実現に対する人々の信認を高めるため、予想物価上昇率をより強力な方法で高めていくことを必要とし、「オーバーシュート型コミットメント」が導入されました。

今後の展開 日米の金融政策が出揃うことで、当面金融市場は安定へ

- 今回の会合結果を受け、21日の10年国債利回りは▲0.02%前後（前日比+0.04%程度）、日経平均株価は16,807.62円（同+315.47円）、米ドル円は102.5円前後（同80銭程度円安）となりました（21日15時現在）。今後は、今夜のFOMCで発表される追加利上げの有無や先々の金融政策の方針などが注目されます。日米の金融政策が出揃うことで、金融市場の不透明さは当面軽減されると思われます。

ここもチェック! 2016年8月31日 最近の指標から見る日本経済（2016年8月） 2016年8月23日 日本の株式市場（2016年8月） 今秋以降は業績改善を織り込む展開へ

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。